

2、寮生活

ルームメイトの存在というのは、学業を含めた私生活に大きく影響を与えるものだと思います。私の通う大学の敷地内には合わせて10以上の寮があります。学生は学期ごとに部屋の移動を希望することができるので、今はちょうど秋学期が終わって多くの学生が寮を移動する時期です。その際ルームメイトとの不一致を寮の移動の理由として挙げる人は少なくありません。実際に私のまわりにいる人からそういった声を聞くこともしばしば。2人部屋の場合は、同じ空間で一緒に過ごす時間が多くなりますし、それに加えて文化の違いや宗教の違い、価値観の違い、見えてくるのが数多くあるのは当然です。たとえうまくいかないことがあった場合にも片方だけに非があるとは言えませんし、多くの学生が住んでいるのですから生徒一人一人の希望を細かく聞いてもらえることはない、ということは初めから覚悟していなければいけません。ルームメイトに対しても、学校に対しても、何か希望や不満があるのであれば自分からはっきり伝えなければ何も始まらない、ということを感じさせられます。それに誰かが努めて自分の考えをくみ取ってくれることはなくても、こちらからアプローチすればそれに相手も答えてくれます。

今学期の私のルームメイトは同い年の日本人の留学生でした。そして隣にはアメリカ人の女の子が2人で住んでいて、4人でキッチンやお風呂を共用する間取りになっていました。次の学期からは4人とも今いる部屋を離れます。私と元と一緒に住んでいた子とはお互いの語学力のことも考えて話をした末に、お隣の2人は何度か口論をした末に、それぞれ新しい部屋を希望することになりました。隣の部屋からけんかをする声が聞こえてくるのは気持ちのいいものではありませんが、逆に日本人の私たちは遠慮や譲り合ってしまうことが多く、お互いに少し気疲れしてしまっていたところがあります。これは国民性が出ているのか、それとも個人の性格の差なのでしょう。改めてコミュニケーションの難しさを日常の中で考えさせられる出来事でした。

3、私の今後

やっと一学期分の留学を終え、冬休みや春休みを除けば私の留学生活もあと半年です。ついこの間こちらでの生活が始まったばかりだと思っていましたが、時間はどんどん過ぎていきます。そして私は未だに自分が留学している理由を模索しているような気がします。もちろんやりたいことがあってここに来たわけですが、他の留学生やこちらでできた友達の考え方、新しい環境に触れることで、視野は広がっていきます。決してここ



に来た理由が変わったり目標を見失ったりしたのではなく、6ヶ月後の自分、つまりこの留学プログラムが終了した時の自分像がどうありたいのかを考え直している、と言ったほうが正しいかもしれません。はっきりと言葉にして表現しないと相手に伝わらない国にいるからこそ、自分がここにいる意味をはっきりと整理したいのです。そうしないと本当にあつというまに毎日が過ぎて行ってしまうから。ただただここで残りの6カ月を過ごすことだっ出来てしまうけれど、それではあまりにもったいない気がしてしまいます。そして、年が明けたらすぐにまた授業の始まりです。毎日が充実していて学校にしても友人関係にしても環境にはとても恵まれています。残りの半年間を楽しみたいという感覚だけで終わらせるのではなく、半年後に何を得ているのか、方向性をしっかり見つめていこうと思っています。

さて、日本にいる同学年の友達は本格的に就職活動に専念しているようで、たまに連絡を取った際にどこが順調に進んでいる、ここはなかなか難しい、などの声を聞くようになってきました。場所は違っても、それぞれが自分自身と向き合って将来を考え始めています。アメリカの学生は大学での専攻科目をそのまま将来の仕事に関連させて考えているため、私たち日本人は、少なくとも私は、こちらの学生よりも将来に対するビジョンがはっきりしていませんが、自分の学部(文化構想学部)を説明するのも一苦労していた初めのころよりかは一歩抜け出せたような気がします。次の学期にまたたくさんのお話を吸収できるように、今はWinterbreakをしっかりと楽しんでリラックス。年が明けたらまた学生生活を充実させます。

(2009年12月22日)

早稲田の学生の留学エッセイは、下のサイトでお読みなれます。
www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm



9月からの秋学期が終わり、冬休みに入った報告です。

早稲田とは違う授業や初めての寮生活で新しい体験に遭遇しています。その体験の意味を自分なりに振り返っています。また、帰国後の生活も気になり始めました。

留学直後の緊張・興奮期を過ぎて、少し落ち着いた段階です。次は？